

18

(18) 米國飛行機(女流飛行家アメリカ・イヤーハート)遭難ノ件

F-0393

0191

電信課長 林 龍

大臣 次官

東亞 歐亞 米 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 一二九二四 暗 華府 五日 後發 本省 七月六日 前着 米

廣田外務大臣

第二三三號 (大至急)

貴電第一七四號ニ關シ

五日早朝館員ヲシテ御來示ノ趣旨「バラントイン」ニ申入レシメタル處同日午後「バ」ヨリ米國政府ニ於テハ本件日本側申出ヲ多トシ是非共日本側ノ協力ヲ得度キ旨並ニ米國側ニ於テハ爾來「イヤハート」機ノ所在地發見ニ極力努力シ居ルモ遺憾乍ラ今日迄ノ所同機ヨリ Howland Island 以北二百哩附近ニアリトノ微力ナル無電ヲ接受セラル最後トシ其ノ後ノ消息不明ナルコト及「ホノルル」米國側海軍

外務省

司令部カ搜查本部ニ當テラレ居ル關係上日本側ニ於テ協力セララル際ハ同司令官ヨリ最近ノ情報ヲ得ラルレハ好都合ナリト思ハルル旨申シ來レル趣ナリ (了)

外務省

F-0393

0192

電信課長
○
○

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
秘書官

寫送先

昭和12 一二九八七 略 ホノルル 六日前發 米
本省 七月七日前着

廣田外務大臣
第四二號ノ一
福間總領事

「アメリカ・イヤハート」機搜索ノ爲ニ日午後七時半眞珠灣出發ノ
米國海軍飛行艇（二月三日附機密第三〇號參照）一機ハ途中無着水
ニテ三日同時刻同灣ニ歸着シタルカ右飛行ニ關シ艇長「ハーベイ」
大尉ノ苦心談トシテ四日及五日ノ當地英字紙ノ報道スル所概略軍事
其ノ他ノ參考迄左ノ如シ
同艇（乗員ハ艇長ノ外中尉二、見習士官一、「ラデオ」係二、機關
士二合計八名）ハ「ハウランド」島（二月二十八日附公第五五號）

外務省

各國航空事故彙集雜件

ヲ目的トシテ出發シ三日午前九時四十分同島ノ北東約三百七十哩ノ
地點（赤道ヨリ三百哩）迄進ミタルモ飛行高度僅ニ三千呎ナルニ拘
ラス雪ニ惱マサレ同地點ヨリ引返セリ（續ク）

外務省

F-0393

0193

電信課長

米

昭和12 一二九九二 略

本 省 七月七日前着

米

大臣

次官

廣田外務大臣

福間總領事

第四二號ノ二

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

尤モ右時刻ノ前約二時間ハ降雨、風雪、曇、空中電氣ト戦ヒ同艇長
十一箇年ノ經驗中最惡ノ天候ニシテ本年一月加州及「ホノルル」間
ノ編隊飛行以上ノ困難ナリ、抑々三日ハ未明ヨリノ「ストーム」ニ
シテ之ヲ避クル爲一萬二千呎ノ上空ヲ飛行シタルモ拂曉ニハ水面ヨ
リ一萬八千呎ノ高サ迄雲ノ波ト化セリ、此ノ時同飛行艇ハ氷雲ヲ以
テ殆ト全部ヲ被ハレ重量著シク増加シ殆ト「コントロール」シ得サ
ル迄ニ至レリ今回ノ飛行ハ往復二千七百八十四哩ニ上リ行程全部カ

寫送先

外務省

逆境ニシテ眞珠灣所屬機ノ飛行中最長距離ノモノナルカ同艇同灣歸
著ノ時ハ更ニ約六時間分ノ飛行燃料ヲ有シタリ、同艇ハ「ストーム」
ヲ避クル爲五十哩丈ケ「コース」ヲ離レタルカ愈引返ス際ニハ今少
シニテ著水ノ已ムナキニ至ラントセリ、其ノ時ノ眼界ハ極メテ狭ク
附近ニ「イヤハート」機アリシトスルモ之ヲ發見シ得サリシモノト
ス

(米へ轉電セリ)

外務省

電信課長

機務課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 一三一三五

暗 本 省 七月八日夜着

米

廣田外務大臣

第四三號

福間總領事

「イヤハート」機搜索方ニ關シ

「マーフィン」長官ノ發表トシテ本七日英字紙夕刊ノ報道スルモ

ノヲ概括スルニ「イヤハート」機搜索ニ關スル米國海軍側今後ノ

計畫ハ「レキシントン」搭載ノ飛行機九十八臺ヲ以テ「フェニ

ツクス」群島一帯ヲ搜索（僅ニ六時間ヲ要スルノミ）スルニアリ

「レ」航空母艦ハ三十三哩ノ速力ヲ以テ來航中ニ付八日午後「ラ

ハイナ」水道（「マウイ」島）著燃料及飛行機用「ガソリン」一

各五航空事故係存雜件

外務省

萬「ガロン」ヲ積込ミ九日午後出發「フェ」群島ニ急行スヘク十
二日朝ニハ前記飛行機ニ依ル搜索開始ノ運トナルヘシ夫レ迄ハ戰
艦「コロラド」ノ飛行機三臺ヲ中心トシ巡邏船「イタスカ」及驅
逐艦「スオン」ヲ以テ「ハウランド」島方面ヲ搜索スヘシ
三「イ」機ノ消息絶エシ以來既ニ五日ヲ經過シ其ノ運命ハ一般ニ悲
觀セラレツツアル今日米國海軍ニ於テ斯ノ如キ大袈裟ナル搜索計
畫ヲ建ツルハ搜索ニ名ヲ藉リ其ノ實軍事上ノ研究ニ資セントスル
モノニアラサルヤ茲ニ一ノ疑問アリ

米へ轉電セリ

外務省

F-0393

0195

山形
海軍陸戦隊
宮送分ノユト

亞米利加局

情報部

普通公第一五五號

第一課長

3

別紙添付
昭和二十二年七月廿五日接獲

昭和二十二年七月九日

在ニールレアンス

領事 佐々藤由己



外務大臣 廣田弘毅殿

「ニールレアンス」紙社説送付ノ件

七月八日「ニールレアンス」紙ハ米國女流飛行家 Amelia Earhart 南太平洋遭難ニ対スル日本ノ搜索協力方申出ニ関シ隣邦ノ友好的行為トシテ米人ノ感謝スレトモロ
ナリト論シ大要電報セルカ右切按御参考送茲ニ送付ス

本信ヲ送付先 在米大使

在ニールレアンス日本領事館

Houston Post, July 8, 1937

A Neighborly Act

CO-OPERATION of the Japanese with Americans in searching for Amelia Earhart, and her navigator, lost in the South Pacific, does more to create good will between the people of the United States and Japan than all the flowery perfunctory speeches that official diplomats on formal occasions combined can accomplish.

Amelia Earhart is a private citizen of the United States. In her round the world flight she was engaged in no official government mission. Her purpose was to make a further contribution to science. She hoped to prove that long distance overseas flights by planes was feasible, and to bring nearer the day when commercial planes would be flying in regular schedule around the world.

The United States is proud of Miss Earhart. It has honored her for many daring exploits in the development of aviation over a period of ten years or more. She is America's most distinguished and best beloved woman aviator.

When the Japanese join in the search for the lost American woman flyer, therefore, they take an action that touches the hearts of the American people. Their gratitude to the Japanese for this manifestation of neighborliness and kindness is experienced immediately. In due time it will be formally, but heartily, expressed to the Japanese government.

The offer of Tokyo to dispatch units of the Japanese navy into the search and the sending of Japanese fishing fleets into the rescue line is a manifestation of a spirit that the American people will not soon forget.

F-0393

0197

電信課長

密

昭和12 一三四〇二 暗

本 省 七月十一日 後着 米

廣田外務大臣

福間總領事

第四四號

貴電第一八號ニ關シ

十日日本官「マーフィン」長官（搜索本部長）ヲ訪ネ貴電ノ趣ヲ傳達シ種々質問シタル處「マ」ハ「イ」機搜索ノ經過ヲ記セル地圖ヲ示シ「ハウランキ」島一帯、其ノ北部及東部海面並ニ「フェニックス」群島ハ「コロラド」機ヲ中心トシテ一應搜索シタルモ未タ手掛リ無キニ付愈「レキシントン」機四十臺及驅逐艦三隻（「レ」ト共ニ九日「ラハイナ」出發）ヲ以テ來ル十二日又ハ十三日ヨリ本格的且最

寫送先

次大臣 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 人事 會計 會社 祕書官

外務省

後的ニ前記區域ヲ更ニ搜索ノ計畫ナルカ其ノ順序ハ「フェ」群島ヨリ始メ北上シテ赤道以北數百哩ニ及ヒ左折シテ「ハ」島北部ヲ探シ南下シテ同島一帯ニ至ル豫定ナリ日本側ノ協力ハ之ヲ多トスルモ「イ」機ヨリノ最後ノ通信ハ「イ」女史カ「ハ」島ヨリ百哩ト考ヘタル地點ヨリ同島ニ達シタルモノナレハ「ギルバート」群島邊ナラハ「イ」機發見ノ「チャンス」ハ「プロバブル」ニハアラサルモ「ボツシブル」ナルニ付米國海軍ニ於テモ最後ニハ或ハ此ノ方面ヲモ探スヤモ知レサルモ「マーシヤル」群島ニハ「チャンス」無キ様思考スルニ付日本側ノ協力ニ對シテハ前記情報以外ニハ別段參考トナルヘキ事項モ思ヒ當ラスト答ヘタリ

米へ轉電セリ

外務省

各國航空事故及不備雜件

F-0393

0198

電信課長

大臣

次官

東亞 歐米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和12 一三六七二 平

倫敦 十三日後發
本省 七月十四日前着

情、米、歐

廣田外務大臣

吉田大使

第四四二號（至急）

貴電第二七〇號ニ關シ（「イヤハート」救助説ノ件）

富井カ當地「インターナショナル」支局長ニ就キ質シタルニ同人ハ
貴電内容ノ如キ同社紐育發電ヲ東京特派員ニ轉電シ眞否問合セタル
處同人ヨリ海軍省ニ就キ確メシメタルニ右様ノコトナキ旨返電アリ
タリ尙右紐育電「ソース」ニ付テハ同支局長ニ於テ本社ヘ照電セル
處右ハ「イヤハート」ノ本名「ブツトナム」ノ名ニテ前顯内容ノ無
電在「マサチュセツト」無電局ニ入りタルニ依ル趣ナリ尤モ夫「ブ

外務省

ツトナム」ハ全然右ヲ關知セスト（了）

外務省

各々航空事故係停雜件

記

大臣 次官
 東亞 歐洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

電信課長
 廣田

寫送先老總內侍

外務省

昭和12 一三六九〇 暗
 華府 十三日後發
 本省 七月十四日前着
 米
 廣田外務大臣
 第二五二號
 往電第二三三號ニ關シ
 十二日國務長官ニ面會ノ際長官ハ本件搜索ニ關スル日本側ノ協力ニ
 對シ謝意ヲ表シ米國上下ハ日本ノ好意ヲ非常ニ喜ビ居レリト述ヘタ
 ルカ同時ニ同人ノ救助ハ最早望ナキ様思ハルル旨内話セリ
 「ホノルル」ヘ轉電セリ

各國航空事故保存雜件

分類 F. 10. 0. 18

要新加高第一號
 業利出南本
 歐亞局 第二課

電信課長 廣田	主 管 情 報 部 長 任 第 一 課 長	電 送 第 10890 號 昭和 12 年 7 月 13 日 時 20 分 發
	宛 在 美 吉 田 大 臣	件 の ヤハート 機 救 助 事 件
第 二 七 〇 號	記 録 名 件 各國航空事故保存雜件	發 廣 田 大 臣

主 任 第 一 課 長
 昭 和 十 二 年 七 月 十 三 日 起 草

電 信 案
 本 渡 船 「イ ヤハート」 機 救 助 セ リ ト ノ 旨
 倫 敦 特 電 (International News) ト シ テ 日
 當 地 「ア ト ヴ ァ タ イ サ」 ハ 本 日 午 前 ニ 時

F-0393

0200

電信寫

シロフ

昭和12 一三六七二 平 倫敦 十三日後發 情。米。歐
本省 七月十四日前着

廣田外務大臣 吉田大使

第四四二號 (至急)

貴電第二七〇號ニ關シ (「イヤハート」救助説ノ件)

富井カ當地「インタナショナル」支局長ニ就キ質シタルニ同人ハ
貴電内容ノ如キ同社紐育發電ヲ東京特派員ニ轉電シ眞否問合セタル
處同人ヨリ海軍省ニ就キ確メシメタルニ右様ノコトナキ旨返電アリ
タリ尙右紐育電「ソリス」ニ付テハ同支局長ニ於テ本社へ照電セル
處右ハ「イヤハート」ノ本名「ブットナム」ノ名ニテ前顯内容ノ無
電在「マサチュセツト」無電局ニ入リタルニ依ル趣ナリ尤モ夫「ブ
ットナム」ハ全然右ヲ關知セスト (了)

F-0393

0202

總番 一〇四三二 符略 昭 和 一二年七月一日 後四時五五分發 主 管 米 一

「イヤハート」捜査ニ關スル件

在「ホノルル」

福間總領事

第一八號

廣田外務大臣

在米大使宛電報第一七四號ニ關シ

南洋廳ニ於テハ引續キ各支廳ノ無電及附近船舶ニ警戒ヲ命シ特ニ「マインシャル」方面捜査ニハ靜海丸ヲ當ラシメ居リ特務艦膠州ハ「イヤハート」機ノ想定通過路附近捜査中ナリシカ乍遺憾未タ何等ノ手掛リ無シ尙ホ同艦ハ十二日頃「ヤルト」着直ニ同方面ノ捜査ヲ開始スル豫定ナルニ付右貴地捜索本部へ御傳達相成リ最近ノ米國側情報御採取ノ上貴方協力ヲ參考トナル可キ點等併セテ電報アリ度
在米大使へ轉電アリ度

各 國 航 空 事 故 停 留 機 件

電信課長

米

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文情 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 一五〇七〇 暗 本 省 七月廿一日前着 米

廣田外務大臣

福間總領事

第四五號

在米大使宛電報第一九一號ニ關シ（「イヤハート」機ニ關スル件）
米國側ニ於テモ同日搜索ヲ斷念シ艦船全部現場ヲ引揚ケタリ
米へ轉電セリ

外務省

(分類門番限日 18)

電 信 案	暗 件	電送第 12388 號	主 管 亞米利加局長
		昭和二十一年七月二十日 午前 11 時 10 分發	任 主 第一課長
外 務 省	第一 九 號	宛 在「ホノルル」 福間總領事	昭和二十一年七月二十日 録田
		件 「イヤハート」機ニ関スル件	
		發 廣田大臣	
		名件録記	

本大臣宛在米大使宛電報第一九一號轉電

電信課長



20

録田

電 信 案	暗 件	電送第 12387 號	主 管 亞米利加局長
		昭和二十一年七月二十日 午前 11 時 50 分發	任 主 第一課長
外 務 省	第一 九 號	宛 在米 赤松大使	昭和二十一年七月二十日 録田
		件 「イヤハート」機ニ関スル件	
		發 廣田大臣	
		名件録記 録田	

十九日打切リトセリ

末々何等発見し得た遺憾を本邦在米大使宛に調査ハ

往電第一七四号ニ関シ

電信課長



20 8

録田

F-0393

0204

亞米利加司
第一課

藤本

發信用	執務用
主信	/ /
附	甲 / /
	乙
	丙
	丁
備考	分類 F.110.9.18

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年八月拾日 發送済

主情報部長

主任 第二課長

報二種人第 三〇〇 號

昭和拾貳年八月拾日

日附 附屬

正校 (原稿) (淨書)

昭和十三年 八月二日起草

受 信 人 名
海軍省
山本 英官

名人信發
堀内 外務次官

件 名
米國飛行家「アリア・イヤート」女史南シロピューストン・ホズ山紙
社説「由スル件」

名件録記
各國航空事故事件性案

本件ニ因シ在ニエールランス 佐藤領事ヨリ

米國女流飛行家「アリア・イヤート」女史南太

平洋遭難ニ對シ日本ノ搜索協力方申

公 信 案

外 務 省

公 信 案

送付々

切披送付越アリタルニ付市参考迄茲ニ

在ニエールランス市

中の事々々 (フニユーストン・ポスト) 紙場載新聞記事

公南の友好的行為に感謝スル

在ニエールランス市

在ニエールランス市 某信方ニ五五号附屬並又新行

記事寫作取ノヒ一部添付ノスト

外 務 省

6 112

F-0393

0205

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 二一七九六 略

桑港 七日後發
本省 九月八日後着

米

廣田外務大臣

塩崎總領事

第一一七號

Edward F. Brodie (當地實業家ニシテ嘗テ暹羅及芬蘭ニ米國公使タリ
シコトアリ) 七日來訪ノ上先般「ホウランド」島附近ニテ遭難シタ
ル「イーヤハート」ノ夫タリシ George Pimer Putnam (「プロオデイ
」ノ判事ニシテ且紐育ノ出版業者「プトナム」ノ一族ナリ) ハ目
下熱心ニ「イーヤハート」機ノ殘骸搜索ニ努メ居ル處「ホウランド」
島附近ニ時速二十哩ノ潮流「マーシャル」郡島ニ向ヒツツアル關係
上殘留品ハ同島ヨリ五百哩ヲ隔ツル右我委任統治區域中ノ島ニ漂着

外務省

各國航空事故彙集

シ居ルヤニ推測セララル趣ニ付同方面ニ於ケル殘骸搜索ニ對シ日本
當局ノ御援助願度尙費用ハ支辨スヘキニ付右概略幾許ナルヘキヤ
承知スルヲ得ハ好都合ナリトテ本官ノ斡旋方願出テタルヲ以テ右何
分ノ儀御回電相煩度ク尙同人ニ對シテハ本件不取敢本省ニ電報スヘ
キモ米國政府ヨリモ日本政府ヘ何等申入ヲ爲シ置クコト可ナル旨申
聞ケ置キタルニ付御含置キアリ度シ
米へ暗送セリ

外務省

F-0393

0206

發信用執務用		
主信	2	1 3
附屬	甲	
	乙	
	丙	
	丁	
備考	分冊 1. 10. 0. 18	

懸案

用機ノ残骸搜索ニ努メ居ルニ
 港実業家ニテ嘗テ暹羅及芬蘭ニ米国公
 使クリン Edward E. Brooke ハ本月七日在桑港
 塩崎総領事ヲ訪問シ「ハウランド」島附近ニハ
 時連二十哩ノ潮流「マ」シヤル群島ニ向ヒ流
 レソ、アル関係ト「イヤ」ト機ノ残留品ハ同島
 コリ百哩ヲ隔ツル我委任統治区域中ノ島

公文書案	外人信	受信人	件名
George Palmer Putnam	イヤーバート機搜索ニ関スル件	海軍次官 拓務次官	先般南太平洋「ハウランド」島附近ニ於テ遭難セ ル「アメリカ・イヤーバート」機ニ関シテハ其ノ後引続キ同 人夫 George Palmer Putnamニ於テ熱心ニ其ノ使
米一普通	米一普通	米一普通	米一普通
通令	通令	通令	通令
第三九六二號	第三九六二號	第三九六二號	第三九六二號
昭和拾貳年九月拾日	昭和拾貳年九月拾日	昭和拾貳年九月拾日	昭和拾貳年九月拾日
日附	日附	日附	日附
附屬	附屬	附屬	附屬
主	主	主	主
亞米利加局長	亞米利加局長	亞米利加局長	亞米利加局長
第一課長	第一課長	第一課長	第一課長
堀次官	堀次官	堀次官	堀次官
正校(原稿)	正校(原稿)	正校(原稿)	正校(原稿)
九月九日	九月九日	九月九日	九月九日
起草	起草	起草	起草

10 138

F-0393

0207

公 信 案

外 務 省

取致右ニ関スル貴見何令ノ儀至急即回示相
 成度尚本件搜索為事者タル「パトナム」ハ「フワ
 オ」デイレノ知人ニシテ且紐育ノ出版業者「パトナム」一
 族ナル趣ニ付右即参考迄申添フ
 本信宛先 海軍次官 拓務次官

公 信 案

外 務 省

此ニ深着シ居ルヤニ推測セラル、趣ヲ以テ同方
 面ニ於ケル搜索ニ関シ日本側ノ援助ヲ得度ク
 且右日本側ノ援助搜索ニ要スル費用ハ自ら
 負担スヘキニ付去來得レ、右概略幾許ナルハ
 右申出ルニ對シ増減ノ致シヨリ
 キヤヲ承知シタキ旨願ハタル趣ナリ本件ニ関シ
 海防總務局 入ツテ可ク旨申出ル
 テハ價米國政府ヨリセ何等申出ル旨知ル
 同 留キタ内ナルモ
 本件在米道總領事ニ於テ回答ノ都合モアリ不

F-0393

0208

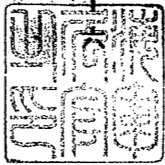
極秘

亞米利加局

官房機密第三七七二號ノ二

昭和十二年九月十七日

海軍次官 山本 五十七
外務次官 堀内 謙介 殿



「イヤハート」機搜索ニ關スル件回答

首題ノ件ニ關シテハ左記方針ニテ可然應酬相成度

記

我委任統治區域ニ於ケル「イヤハート」機殘留品ノ搜索ニ關シテハ帝國
ハ附近通航ノ船舶竝ニ出漁中ノ漁船ヲシテ出來得ル限り搜索セシムベシ

海軍(終)

昭和十二年九月十七日 接
亞米利加局 第一課

F-0393

0209

同盟 外信 第十九號 十二年十二月三日

通

◎南洋諸島空中偵察談

ロンドン二日發同盟雑誌キヤヴァルケードは濠洲の週聞雜誌「スミス・ウエークリー」に掲載されてゐた記事を引用し米國海軍機は先般太平洋で行衛不明となつた女流飛行家アメリカ・イヤハート女史を搜索した際日本の南洋委任統治地を空中から偵察したといふセンセーショナルな報道を傳へ左の如く述べてゐる

「米國海軍機はイヤハート女史搜索を機會に日本の南洋委任統治諸島の若干を空中から偵察し其の結果を濠洲政府へ報告した、右に於て濠洲の「スミス・ウエークリー」紙は次の如く書いてゐる

續く上

外信 第十九號ノ二

X

「世界の情勢が緊迫してゐる現狀に於て而も
濠洲が多年國防知識を閑却してゐる事情に
鑑み米國海軍の手で日本の南洋委任統治地
を偵察して貰ふことは濠洲にとつては正に
絶好の好機會であつた、米濠兩國政府間
は以前から此の種の諒解が成立してゐた」

唯
17
4

後 ○・〇五 ア

公
信
案

外
務
省

(別紙 同盟条 字多クハ外務省に付下)

ナリシハハットトモ 同盟条 記事ヲ載セシ
モニニシテ
忠告 萬一ニ各ニ部宛書送付相取合

發信用		執務用	
主信	1	1	2
附	1	1	2
甲			
乙			
丙			
丁			
屬			
備考			

至急
記録
條約局
第三課長
大野中佐
一節の詳は通付下

公
信
案

外
務
省

故ハハットトモ 同盟条 記事ヲ載セシ
モニニシテ
忠告 萬一ニ各ニ部宛書送付相取合

名 件 名 人 信 受
在 下
名 件 録 記 名 人 信 發
昭和十二年十二月六日

主 管
主 任
昭 和 十 二 年 十 二 月 六 日
昭 和 十 二 年 十 二 月 六 日
昭 和 十 二 年 十 二 月 六 日

文書課長

6 81

三
12.12.4
文書

Feverish interest in the Earhart search acted, with shrewd newspaper reports, as a blanket over this astounding aspect of the U.S.A. flights. The facts are known in the proper quarter, which are admittedly perturbed over the Japanese situation in the Pacific.

Even if Japan had no ambitions in the Pacific, other than safeguarding her lines of communications, the proximity of fortified islands would be disturbing enough.

Military men declare that Japanese sampans, which come down to Queensland at times, have Japanese naval men in charge; that they are excellent sampans for scouting and rating thinly settled places, and that the Japanese navigators know the Queensland coast in every detail.

Theoretically, an attack by sampans would permit of those vessels loading light tanks and supplies for putting ashore without difficulty. Some of the sampans draw only 2 ft. of water, making approach to land an easy matter for the landing of tanks and light supplies.

An Australian who was formerly a high official in the Commonwealth diplomatic services, tells "Smith's Weekly":

"There has been an understanding between America and Australia regarding the Pacific for years. The U.S.A.'s quadrilateral range over the Pacific was a square embracing the area from the Aleutian island, Panama, Samoa, and Guam. The Japanese infiltration has pushed the Japanese crescent into the Pacific, forcing American interest back accordingly.

"Japan has a naval base and arsenal at Borrin, and in addition to the masked Caroline and Marshall islands (7100 of them) has extended to Guam and Yap.

"Furthermore, Japan's interest in the Philippines is extensive, with one-third of the population and two-thirds of the trade. The Philippines will have autonomy in two years, passing out of American direct control.

"Borrin lies opposite the British Singapore base, and now Japan has an interest at Yampi Sound. Take a map, and you will see that a line from Yampi (Australia)

to Borrin cuts off Singapore, while Japanese infiltration of the Pacific now extends down to Yap.

"You might also like to know that the nearest capital city to Darwin is not in Australia. It is Manila, in the Philippines, now becoming Japanese in influence.

"I trust", he added, "you know a little more about the Pacific situation. Some of us have known for years, but reports to the Commonwealth Government are probably decorating some handsome pigeonholes."

previously conducted religious propaganda among natives there have been forbidden to return.

The islands are held by mandate given to Japan when that country was a member of the League of Nations. Now she is no longer a member, but she holds the islands in an iron grip. The position of the islands and their possible fortification in the Pacific were matters of grave concern to America and to Australia.

With an examination of the accompanying map it can be seen that this group of islands dominates the Pacific - close to Honolulu, close to the Philippines, and equally close to New Guinea and Queensland.

When Japan struck so suddenly at China, and its war machine blackened Shanghai, the doctrine of naked force was revealed. The "it cannot happen nowadays" theory was bayoneted out of existence.

Australia's interest lies in the fact that quietly, and with the usual lack of publicity, Japan has been working to get closer to the Commonwealth, equipping Japanese bases admirably suited for an expedition into the Pacific.

While this does not allege that Japan is feverishly waiting to strike into the Pacific, military circles are perturbed by the knowledge that fortified islands have been so suddenly prepared nearby.

The knowledge does not add to a feeling of security, when armies march into foreign countries practically without warning these times, and start to "mop up".

As a matter of military precaution plans are always drawn up awaiting a mythical invader. In Australia the experts are not the only ones who know of the country's weakness in case of attack. Most people know it, as well as Japan's experts would also know it.

Japan's mandate over the Caroline and the Marshall islands, plus the taking over (peacefully) of Yap, are matters probably forgotten in the general rush of events. Military men became aware of the fact with the seeping through of news that there is a

prohibition on visitors.

This is grim news to the War Department. It means that there are military occupation, fortification, bases, and war material prying eyes are not permitted to see in cases like these.

So when Amelia Earhart went down and her faint distress signals located her plane around the Phoenix islands, the search for her gave the pretext that was needed. Sentiment comes second to Secret Service.

U.S.A. naval planes swept over the waters around Phoenix islands and then took a wide turn and went farther on. They circled on, covering the areas in which the Caroline and Marshall islands are to be found.

Naval flying men are admirable observers. It is their profession.

America poured money on this search. Allowing for the human interest, the search was so costly that only those on the inside even guessed at the purpose of the expenditure of 2,500,000 dollars - in our currency £500,000.

It was the opportunity not to be missed, a real excuse to fly over Japan's islands-by-mandate, to observe what the waters contain. Today the Australian Government has been apprised of some of the knowledge gleaned. With the world situation as it is, and with Australia's neglect of defence over the years, the knowledge came as a godsend - paid for by the U.S.A.

Yap island is close to the equator. If a line were drawn from Japan to the Caroline islands and then continued to the equator, it would strike Yap. The latter is outside New Guinea, and not so far, after that, from Queensland.

The Marshall islands are between the Carolines and Honolulu, hence America's interest. From the Carolines to New Guinea is little further than from Tokio to Shanghai. The map tells the story - and it is a chapter which brings Japan to Australia's back-door.

7/8
1/10
1/11
1/12

SMITH'S WEEKLY" - October 16th, 1937.

When W.M. Hughes, at the Peace Conference, insisted that Japan have no island Mandates in the Pacific below the equator, he was long-sighted. But even with what Japan has, her strategists have not been idle. Australian Defence authorities know all about this now. U.S.A. observers seized the opportunity offered by the search for Amelia Earhart. They swept wide enough to make a scrutiny of Japanese naval activities in islands in the groups under control of Nippon.

Until now the real story has been withheld of the desperate international intrigue, bracketing Australia, that went with the search for ill-fated Amelia Earhart, when the intrepid aviatrix crashed into the Pacific somewhere near the Phoenix Islands. It is a story of military tactics that went hand in hand with that search - hand in hand with the terrific expense of \$500,000 spent on American naval planes.

American planes did more than just search for Amelia Earhart. They cut a wide swathe over the Pacific and circled over the Caroline and the Marshall islands.

Here Australia comes into the picture. The grim threat of war bears a little closer when it is realised that the groups of islands, and another (Yap) controlled by Japan, lie right at Australia's northern door.

Under cover of the search for the missing aviatrix, America's naval aircraft were anxious to glimpse two of the islands, believed by military experts to have been fortified by the Japanese. The Australian Government now knows more about that search than has been disclosed publicly.

No one is permitted to land on the Japanese controlled islands. Missionaries who

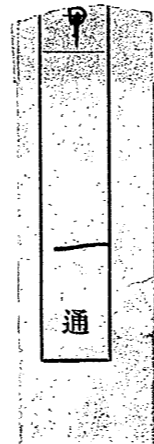
F-0393

0215

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



通
SMITH'S BIRTH - October 18th, 1871

When W. J. Smith, at the Peace Conference, insisted that Japan have no islands in the Pacific below the equator, he was disappointed. But even with what was then considered a very not been this. American officials had not all about this now. U.S.A. observers said the opportunity of the search for Amelia. They were able to make a satisfactory of business was activities in the islands in the groups under control of W. J. Smith.

Until now the real story has been withheld of the desperate international intrigue, preceding Amelia's disappearance. The search for Amelia's remains was the first step. It is a story of military tactics that went hand in hand with the search for Amelia's remains of \$2,000,000 spent on American naval planes.

American planes did not find Amelia's remains. They cut a wide swath over the Pacific and circled over the islands and the Marshall Islands.

Here Amelia's remains were found. The first time of war there is little closer when it is realized that the groups of islands, and another (V.V.) controlled by Japan, the night of Amelia's disappearance.

Under cover of the search for Amelia's remains, American planes were sent to the islands, followed by military or police forces. The search for Amelia's remains has been justified by the U.S. Government. The search has been justified by the U.S. Government. The search has been justified by the U.S. Government.

It is realized that the search for Amelia's remains is a story of military tactics that went hand in hand with the search for Amelia's remains of \$2,000,000 spent on American naval planes.

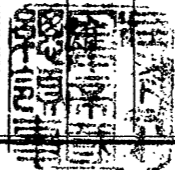
F-0393

0216

至急

外務大臣 廣田弘毅 殿

在シドニー
總領事 若松 虎



驛頭局

第三課長

若松

別紙添付

公第

三 第

昭和拾參年 壹月拾四日

昭和拾參年 壹月拾四日

條約局

第一課長

（一）新軍令部
送付あり

故「イヤー」ト「女史太平洋横断飛行遭難」ニ関スル
記事掲載ノ濠洲週刊紙「スミス・ウィークリ」送付有件

本件ニ関シ 昭和拾參年十二月九日附貴信 第三巻通券一三〇号ヲ以テ
申越ノ趣取次 十月十六日附右週刊紙ノ蒐集ニハ 方督ナシモ

在シドニー 日本總領事館

2

原本ノ下子 不可能ナシ付 右記事全文ノ「タイプライター」寫本
ニ部茲ニ送付ス 申査收相成知

在シドニー 日本總領事館

F-0393

0217

公文書

外務省

（ト）素信一月十日付台字ニ号
別紙 英文官ノニ
（佐）添付ノ事

主信	1	1
附甲	1	1
附乙		
附丙		
附丁		

第三課長
藤野

分類 門 類 項 目 / 8

公文書

外務省

受 領 部 門

軍令部
西田大佐

件名
故ハハトトレ女史太平洋桂樹街チリニ国志揚河週刊紙
トニエウリノレ記ノ字送付ノ件

件名
本件ニ関シ今般在コトニレ其松松故チリニ関係記ノ全文宜
送付致スルニ付 右書参考 送付ニ

名件録記
各西航云ノ事ノ故雜書

名人信發
石津課長

主 管
歐亞局長
第三課長

主 任
第三課長

昭利拾參年貳月拾四日發送済

昭利拾參年貳月拾日

日附 附屬

淨書 (磯野)

正校 (原稿)

昭和十一年三月七日起草

10 25

別紙

第三 13.2.8 文書

F-0393

0218